

台湾原住民のダンスカンパニーにみる 身体の創造と社会的役割

松倉祐希(京都大学大学院)

「台湾原住民」とはオーストロネシア語族に属する台湾の先住民族である。現在 16 民族が公式に認定され、台湾総人口の約 2.6%を占めている。各民族はそれぞれ独自の言語や文化を保持しているが、日本統治期および戦後の国民政府による同化政策により、その文化の継承は著しく困難となった。しかし、1987 年の戒厳令解除を契機に、台湾社会は大きな変化を迎える。1980 年代の原住民運動では、歴史や文化の継承、さまざまな権利獲得を求める活動が展開される一方で、原住民観光がブームとなり、彼らの伝統的な祭祀や歌舞は観光資源として表象・消費された。1990 年代に入ると、台湾社会全体が新たな文化的アイデンティティを模索する必要性に迫られる中で、中国大陸との差異化や文化外交の手段として原住民文化の価値が浮上する。それまで地方文化や娯楽と位置づけられてきた原住民文化は、政府の文化政策を通じてナショナルな正統文化の一部とされ、台湾固有の文化としての地位を高めていった。

そして、1991 年に設立された「原舞者」(The Formosa Dance Foundation of Culture and Arts)は、原住民舞踊を劇場芸術へと展開させる大きな転機となった。彼らは人類学的手法を用いた作品創作を行い、国内外で高い評価を得た。以降、新たな創造性を備えたプロフェッショナルな原住民のダンスカンパニーが次々に誕生する。

本研究は、こうした文脈の中で主に 2000 年代以降に登場してきた、原住民文化を主題に扱うダンスカンパニーに注目し、現代の原住民がどのように自身の文化を再発見し、ダンス作品として再構築するのかを明らかにする。加えて、カンパニーの活動がどのような社会との関係を形成しているのかを明らかにすることを目的とする。

研究対象として取り上げるのは、2006 年に設立されたパイワン族の文化を基盤とするティモルダンスシアター (Tjimur Dance Theatre) である。本研究では、公演・リハーサル・ワークショップへの参与観察、および関連文献を参照しながら分析を進めた。

ティモルダンスシアターは、芸術監督の路之・瑪迪霖(ルジ)によって創設されたフルタイムのダンスカンパニーであり、バレエやモダンダンスといった西洋舞踊の技術を取り入れつつ、伝統的な歌舞を現代の身体言語へと再編することを志向している。

同カンパニーの創作の中心には「ティモル・ボディテクニク」の開発がある。この技法は、パイワン族の伝統的な歌と踊り、すなわち「古謡」と「四歩舞」を基盤としつつ、呼吸のリズム、特に「吐く息」に基づく動作を重視する点に特徴を持つ。身体の外形的均整を重んじず、身体を内側から動かすことに価値を置き、流動的な「内なる声」を身体化する方法論である。ここには、ルジが示す「歌が身体を動かす」というパイワン族の文化的認識が反映されており、歌と踊りを切り離さない一体的な実践として舞踊が再構築されている。

ルジは、このテクニクをダンスの基盤とすることで、記号的な民族要素に依存せず、身体技法を通じて「パイワンの身体」を作品の中に構築する。ここでは固定的な身体ではなく、呼吸によって流動的に変容する身体を現代的な語彙へと変換することを重視している。また、この技法は発展途上にあり、ルジは国内外のアーティストとの交流を通じて変化し続ける可能性を積極的に認めている。さらに、この方法論は特定の民族的アイデンティティのダンサーに限定されるものではなく、現代における「パイワンの身体性」を体現する、誰にでも開かれた方法のひとつとして位置づけている。

また、ティモルダンスシアターは 2018 年以降、地元の原住民集落を拠点に「ティモルアートフェスティバル」を毎年開催している。このフェスティバルは、海外アーティストを招いたワークショップやコラボレーション、伝統工芸体験、集落ツアーなどを含み、集落そのものを国際的な文化交流の場へと転換する試みである。同時に、都市部からの参加者や集落の住民、子どもたちに対する文化教育の機会を提供し、文化的継承を担う重要な役割を果たしている。

このように、ティモルダンスシアターはパイワン族の伝統的な歌舞の特徴を再発見し、抽出することで、現代における「パイワンの身体」を創出する。その創作は、外部社会における原住民像をステレオタイプから解き放つ身体的実践でもある。また集落で主催するフェスティバルを通じて、集落における歴史・文化教育や国際的ネットワーク形成、さらに主流社会との新たな文化的接点の構築に寄与している。彼らの活動は文化継承の手段であると同時に、集落と都市、ひいてはグローバルをつなぐ媒介的な文化回路として機能しているのである。

(本研究は JSPS 科研費 24KJ1427 の成果の一部である。)